



みみらんど通信

発行 福島県立聴覚支援学校 会津校 令和6年2月29日 令和5年度 第3号

子育て座談会を開催しました



今年度も、東北福祉大学 教授 大西 孝志先生のご厚意で、子育て座談会を開催しました。早期教育相談や在校生の保護者の皆さんに参加していただくことができました。今年度は、保護者の皆さんのご要望にお応えし、個別での懇談とグループでの座談会から、選んで参加していただけるようにしました。和やかな雰囲気の中、お子さんの聞こえや言葉の発達、進路選択など、様々な話題に、大西先生からたくさんのご助言をいただきました。参加された皆さんからは、「なるほど！早速、試してみたいです。」と大盛況でした。

大西先生が、どのケースにも共通してお話して下さったことに「子どもたちのことばを育てる・思考力を育てる」ための取り組みがありましたので、ご紹介します。

【環境編】



① お子さんから見える位置に、時計をおきましょう。

子どもたちが数字に親しみ、時計の読み方に慣れるために、アナログ時計を部屋に置くようにしましょう。1から12まで数字で示されたシンプルなものの方が適切です。デジタル時計は、時刻以外のさまざまな情報が表示されるものが多いため、どの数字を読めばよいのかわかりにくい場合があります。

鳩時計やオルゴール付きの時計もお勧めです。音に気づき、生活の目安にすることもできます。



② 新聞を活用しましょう。

ぜひ、新聞を活用してほしいとのことでした。社会で話題になっているニュースや災害など、新聞記事が親子の共通の話題になります。写真も載っているので、それを見ながら、生活の中で気を付けること、考えてほしいことなどを話すことで、ニュースの言葉を覚えたり、考える力が育ったりします。小学生新聞や子どもニュースなど、子供向けの記事を掲載している新聞もあります。

また、新聞紙は、生活のさまざまな場面で活用できます。雨の日に濡れた靴に丸めて入れて乾かしたり、大根や白菜などの野菜を包んで保管したり、親子で一緒に取り組むことで、生活する力が育ちます。最近では、古新聞を束ねて縛ることができない大学生がいます。できて当たり前になりますが、経験していなければ身に付かないということです。

栓抜きや缶切りも同じです。てこの原理を用いた道具です。経験していれば、小学生の「てこの働き」の学習をする際に、理解しやすくなります。



【家庭での取り組み編】



① かるた・花札・トランプなどのカードゲームで遊びましょう。

犬棒かるたがお勧めです。「頭隠して尻隠さず」「犬も歩けば棒に当たる」など慣用句の表現を覚えることができます。対象年齢 3 歳以上のものがほとんどですが、平仮名が分からなくても、絵を手がかりに数枚は取ることができます。繰り返すことで、意味は分からなくても、ことばとして知っている、意味が分かる年齢になったときに、表現の幅が広がります。

花札は、1 2 か月の季節と日本の伝統文化が絵柄として表されています。キティちゃんやドラえもんなど子ども向けのキャラクターの花札もあります。同じ種類に分類することで、物の概念の形成につながり、学習の中で生きてきます。札ごとに点数が異なるので、点数を数える力も育ちます。

トランプも同様です。数字合わせや柄合わせなどを通して、共通点を抽出する力が育ちます。ルールに沿って遊ぶことは、集団参加にも役立ちます。

子どもたちの数の概念は、初めに物の数え方として 10 までの数量（左右の指の数）をあつかえるようになります。その次は、50 くらいまで数えられるようになり、その後 100 となります。

かるたも花札もトランプも、50 枚前後で構成されています。50 枚くらいのものを自在に操ることができるのが大切です。



② 絵日記・日記の勧め

会津校では幼稚部段階から絵日記を書き始めますが、小学生になっても、日記を続けてほしいとのことです。毎日同じような内容になったとしてもかまいません。当たり前のことを普通に書けることが日記のねらいです。身のまわりで起きたことをきちんと書くことができ、あとから本人や他の人が読んだときに、分かればよいのです。日記を毎日書いていると、生活の中で、「何を書こうかな？」と考える子に育ちます。そうになると、自ずと話題がバラエティ豊かになります。

日記を 3 枚書けない子には、読書感想文を原稿用紙に 4 枚書くことはできません。聞こえの程度に関わらず、毎日書いて、絵日記や日記を基に、家でも学校でもお話ししてほしいです。そして、たくさんほめてあげましょう。



③ 幼児期に積み木やブロックで遊びましょう。

みみちゃん教室や幼稚部など幼児期の遊びに、積み木やブロックを取り入れましょう。立方体や直方体、三角柱、円柱などで構成される木製の積み木は、片付けるときに、きれいに並べることでケースに収まるものがあります。平仮名積み木は、積み木としていろいろ作って遊ぶ楽しさに加え、次第に自分や家族の名前、すきなものなどの言葉を構成して遊ぶ楽しさがあります。平仮名 50 音を覚える頃には、あいうえお順に並べて片付けたくなくなります。

積み木やブロックは、想像を膨らませていろいろな形をつくることができます。「ピタゴラススイッチ」を知っているお子さんは、積み木やブロックでピタゴラス装置をつくるかもしれません。ビー玉を用意してあげると、オリジナルのピタゴラススイッチを楽しめます。工夫して作ったことを、絵日記に表せると言葉としての振り返りもできます。

